

第16回

『このミステリーがすごい！』大賞受賞！

オーパーツ鑑定士が謎解く 密室殺人

『このミス』大賞史上 最年少25歳が大賞受賞

株式会社宝島社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:蓮見清一)は第16回『このミステリーがすごい！』大賞・大賞受賞作品『オーパーツ 死を招く至宝』を2018年1月18日(木)に発売します。

『このミステリーがすごい！』大賞は、ミステリー&エンターテインメント作家・作品の発掘・育成を目的に2002年に創設した新人賞です。これまで、直木賞受賞者の東山彰良氏や、累計1000万部突破の「チーム・バチスタの栄光」シリーズの海堂尊氏などの作家を輩出・育成してきました。

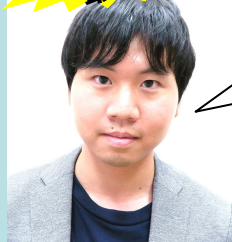
今回の大賞作は、古代文明の出土品ながら、当時の技術や知識では明らかに生成不可能な工芸品“オーパーツ”をテーマとした大賞史上初の本格ミステリーです。オーパーツ鑑定士が大仕掛けの物理トリックを明らかにし、密室殺人事件を解決していく展開が見どころとなっています。

著者である蒼井碧(あおい・ぺき)氏はドイツ生まれの25歳で『このミステリーがすごい！』大賞史上、最年少の大賞受賞者となりました。弱冠25歳ながら、大胆かつ緻密なトリックの発想が選考委員から絶賛され、今後のさらなる成長も大きく期待されています。

ミステリー好きの方だけでなく、世界の歴史や文化が好きな方、物理が好きな方など、学生から大人まで幅広い世代の方々に楽しんでいただける作品です。

著者のインタビュー取材も可能ですので、ぜひご検討をいただけますと幸いです。

『このミステリーがすごい！』大賞では、これからも新しい作家・作品を発掘・育成し、業界の活性化に寄与したいと考えております。

大賞史上
最年少！

執筆のきっかけは「オーパーツ」を扱った本格ミステリーってあまり聞かないなと思い至ったことが始まりでした。ミステリアスで魅力的なテーマだと思っていたので、自分が先駆者になろうと決意し、執筆に取りかかりました。水晶觸媒に限らず“オーパーツ”がもつ、科学とオカルトという対立するはずのふたつの分野がまるで硬貨の裏表のように同居しているという矛盾に魅力を感じ、ひいては太古の謎に対する探究心をくすぐられます。

蒼井 碧 (あおい・ぺき)

1992年1月、ドイツ・デュッセルドルフ生まれ。東京都小平市で育ち、在住。

上智大学法学部法律学科卒業 (民法専攻)。昔から世界各地の文化や歴史に興味があり、世界史や日本史を勉学する。独学で世界遺産について学び、2017年7月に世界遺産検定2級を取得。現在はリース会社に勤務。

『このミステリーがすごい！』大賞とは？

ミステリー&エンターテインメントブックガイド『このミステリーがすごい！』を発行する宝島社が、新たな時代のミステリー&エンターテインメント作家・作品の発掘・育成を目的に、2002年に創設した新人賞。大賞賞金は文学賞最高額である1200万円。受賞作はすべて書籍化している。第153回直木賞を受賞した東山彰良氏や、第15回大藪春彦賞を受賞した柚月裕子、累計1000万部突破の「チーム・バチスタの栄光」シリーズの海堂尊氏などの作家を輩出している。受賞作品からは多くのベストセラーが誕生し、『警視庁捜査二課・郷間彩香特命指揮官』(梶永正史・2016年テレビドラマ化)、『一千万の身代金』(八木圭一・2015年テレビドラマ化)、『果てしなき渇き』(深町秋生・2014年映画化、映画タイトル『渇き。』)、『さよならドビュッシー』(中山七里・2013年映画化、2016年テレビドラマ化)など映像化作品も送り出している。

また、受賞には及ばなかったものの将来性を感じる作品を「隠し玉」として書籍化し、ベストセラーを生み出している。



『オーパーツ 死を招く至宝』
2018年1月18日発売
定価: 本体1380円+税

あらすじ

貧乏大学生・鳳水月の前に現れた、顔も骨格も分身かのように瓜二つな男・古城深夜。同級生の彼は、“オーパーツ”鑑定士だと高らかに自称した。水晶觸媒に囲まれた考古学者の遺体、夫婦の死体と密室から消えた黄金のシャトル…謎だらけの遺産が引き寄せた数多の怪事件と難攻不落のトリックに変人鑑定士・古城と巻き込まれた鳳の“分身コンビ”の運命は!?